

ほむ・ほむ通信

No.13
[春の特大号]

グループ ほむ・ほむ

なのはな生協

「手から手へ温もりを伝える」



Partnership

生協のユニセフ活動・12

アロマテラピー講習会

ハンド・イン・ハンド募金

千葉のなのはな生協では、「アロマテラピー講習会」というユニークなスタイルで、ハンド・イン・ハンド募金に参加しています。8年前から街頭募金をJRの駅前でやっていましたが、そのうちに自分たちのアイデアで、より個性的な募金活動にできないだろうかという考えが芽生えてきたということです。独自のやり方を考え出すヒントとなったのは、「手を携えて、協力しよう」というハンド・イン・ハンドの意味。それが「手から手へ温もりを伝える」というイメージへつながり、「アロマテラピー講習会」はどうだろうという声があがったのです。昨年12月の実施ですでに5回目。すっかり定着しているようです。

なのはな生協のたすけあい委員会のメンバーで、当日はアロマテラピーの講師をなさった山崎フサさんにお話を伺いました。

「時間配分に工夫をして、ハンド・イン・ハンド募金の

目的もしっかりお話することができました。ほのかに芳香の漂う会場で、『アロマテラピーとは何か?』という話をします。今回は植物100%の精油を使うアロマテラピーで、人の身体や心にどのようにして働きかけるのかというメカニズムの解説もしました。

洗面器の湯の中に精油を1滴垂らし、立ち上る香りの湯気を深く吸い込み、両手を入れると、まるで全身入浴のような良い気持ちを実感できます。

この日のテーマは、『香りの輪—たすけあう和を願ひ』。そして、風邪の季節、受験の季節を意識した講座となりました。毎年参加者には大変好評です。会場の都合で人数制限をしなければならないのが残念ですが、小さなことでも力をあわせて続けていきたいと思っています。」

なのはな生協では、次回6回目の開催を目指しているそうです。

＜福本＞

●この記事に関するお問い合わせは…

なのはな生協 たすけあい委員会 担当/山崎フサさん
TEL 047-332-1066/FAX 047-332-1066

特 集

UNICEF
STUDY
TOUR

日本ユニセフ協会では、年度に1回、スタディツアー生協チームを編成しています。ユニセフの活動を視察し、募金の使われ方や成果を確認します。

インド

2000.11.12~20



支援とは互いに感謝し合うこと

今回は、昨年11月にインドスタディツアーに参加した、いわて生協の平 和雅(たいら わか)さんの報告と感想を中心に、現地の様子をお届けします。



視察先のインド・ビハール州は、人口約1億人。貧富の差が激しいことで知られるインドの中でも最も貧しいといわれ、人々は電気もなければ水道もないという劣悪な環境で暮らしています。私は、その生活の実態を知り、またこのような厳しい状況下にある人たちのために募金がどのように役立てられているのか、現地でのユニセフ活動がどのように展開されているのか肌で感じ、理解を深めたいと考え、このツアーに参加しました。



村の清潔度の違い

村の人々の生活は貧しく質素なものでしたが、美しい自然の中でのその暮らしぶりは、私にはとても新鮮で心洗われるような思いでした。この地がまるで聖域のように感じられました。

支援を受けてまだ間もない村から、7~8年経つ村までいろいろ見学することができましたが、明らかに違っていたのは、その清潔度です。間もない村では、民家に窓や戸はなく、燃料となる乾燥させた牛ふんがあちこちに置かれ、居間も寝室も物置も区別がないという状態でした。

それに比べ支援が始まって7~8年経つ村には、直径3メートルくらいの大きな井戸があり、乾燥した牛ふんはまったく見られません。家の中に入ると5~7部屋くらいあり、1つの家に4~5世帯の大家族で暮らしています。部屋には靴を脱いで入ります。女性たちの、「清潔に生活しよう」という意識が強いことを感じさせられました。

支援の期間が長いほど衛生的で、女性たちがイキイキしているように感じられるということは、それだけ私たちの募金が有効に役立てられていることの証明だと思います。形に残る物質的な援助だけでなく、生活を改善しようという、目には見えない意識のようなものが浸透しているのだということがわかりました。



現地の女性たちが4～5人のグループを作り、貯金をしたり、子どもの栄養や衛生について学習できるようにするのも、ユニセフ活動の大きな柱です。

「団結し、交流することによって自信がつき、何事にも積極的に取り組めるようになった」と話す女性たち。差別をしたり暴力をふるったりすることの多かった男性たちも、女性たちの意識と行動に影響を受け、変わってきたということです。

「何よりの宝は、こうして訪問してもらえること」という言葉を聞いたときには、ジーンとくるものがありました。人と人との心の交流ができた。これが支援なのだと感じました。支援する側もされる側も、互いに学び合い、感謝し合うものなのだと私は思います。

勉強したい！

私は以前から、海外ボランティアに興味がありました。中学校の先生の経験があり、現在男の子3人の母でもある私は、教育にも興味があります。

インドの村の学校も訪ねました。教室には130人もの子どもたちが、ぎっしりと詰め込まれていました。教室不足、先生不足がインドでは大きな問題となっています。インドの子どもたちは、無邪気に憶えたばかりの字を書いて私たちに見せてくれます。勉強したい！という気持ちがひしひしと伝わってくるようでした。未知のものを学ぶ喜び。今の日本が忘れてしまったものにインドで出会ったような気がしました。



平 和雅(たいら わか)さん
共同購入をするだけで生協もユニセフもあまり知らなかった私ですが、このようなチャンスに恵まれて感謝しています。私の見てきたことを皆さんに伝えていきたいです。

平さんのインド報告 いわて生協/ユニセフのつどい

お土産のサリーを着て記念撮影。



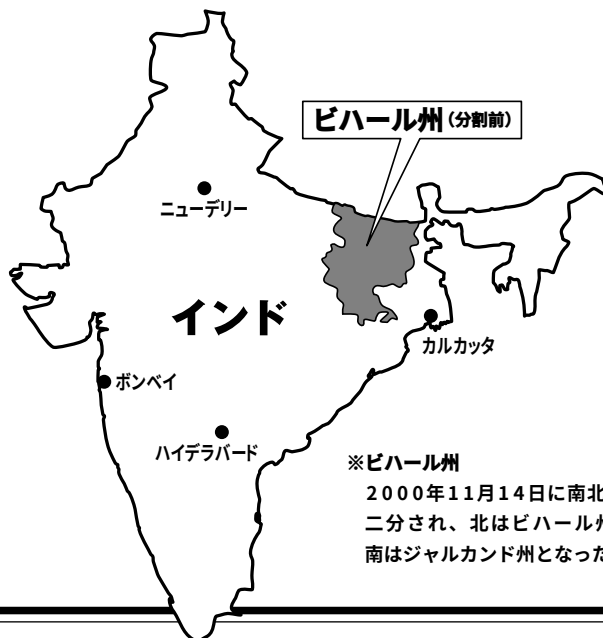
インドで撮影した写真をパネルにして展示。



スライドを使った現地報告のあと、インドの紅茶でティーブレイク。クイズのコーナーもありました。

●この記事に関するお問い合わせは…

いわて生協 組織企画部 担当/吉田敏江さん
TEL 019-687-1321/FAX 019-687-1491





インド大地震

緊急募金

—— 緊急救援から復興支援へ ——

1月26日、インド西部グジャラート州を襲った大地震では、3万人もの死者と16万人を超す負傷者が出ました(2月20日現在)。グジャラート州に現地事務所を持つユニセフは、地震発生直後より世界各国の民間からの支援を得て、緊急援助を実施するとともに、被害状況の調査を確認しました。現在、支援の重点を当初の緊急救援から、長期的展望を持つ復興支援へと移行しています。

—— 母子保健と清潔な水の供給 ——

WHO(世界保健機関)とも協議した結果、『350万ドルを投じて350の仮設保健センターを災害の最もひどかった農村地域に設置し、子どもの予防接種と妊産婦のケア』『テントや基礎的な母子保健サービスに必要な資機材の供給』『麻疹の予防接種用に40万本の注射器を含めた予防接種関連の資機材の供給』を決定しました。その他、清潔な水を供給するためにポンプ、発電機器、浄水剤を供給しますが、これには少なくとも200万ドルを投入します。

—— 学校再開 ——

州政府との協議で、少なくとも300か所に学校を臨時に開くことにしました。学校再開を優先する理由としてユニセフは以下を挙げています。

『学校が被災した子どもが陥っているトラウマ(心の傷)を取り除くカウンセリングの場となる(2月9日に40のNGOと協力してカウンセリングのワーカーの訓練開始)』

『子どもを違法な児童労働に従事させないよう保護する』『子どもをある時間学校で預かることで親が復旧に集中できるようにする』『学校が地域社会の復旧の新たなセンターの役割をする』『学校は子どもに希望を与える』。

ユニセフは300万ドル相当の教科書、ノート、チョーク、鉛筆などの学用品セット、黒板、その他の教具を供給することを決定しました。

緊急募金にご協力をお願いします

(財)日本ユニセフ協会は、インド西部で起きた地震の被害を受けた子どもや家族を支援する「インド地震緊急募金」を受け付けています。皆様のご協力をお願いします。

郵便振替：00110-5-79500
口座名義：財団法人日本ユニセフ協会

通信欄に「インド地震」と明記

当協会への募金は寄付金控除が認められます。
送金手数料は免除されます。

募金はインターネットでも受け付けています
<http://www.unicef.or.jp>

●インド地震緊急募金に関するお問い合わせは…

(財)日本ユニセフ協会 協力事業部 担当/藤田

TEL 03-3355-3222/FAX 03-3355-3810

エルサルバドル地震被災へのユニセフの緊急援助

1月13日午前11時35分、中米エルサルバドルを襲ったマグニチュード7.6の地震による被害を受けた子どもや家族に対するユニセフの緊急援助を支援するため、財団法人日本ユニセフ協会は、「エルサルバドル地震緊急募金」の受付を開始しました。2月13日には、マグニチュード6.7の地震が再び発生し、死者は1,000名を超えました。これまでに8,000名以上が負傷し、150万人以上が被災しました。大地震により、約15万戸の家屋と、470以上の学校が崩壊しました。(2月27日付 OCHAレポートより)

水と衛生センター

ユニセフは、地震による断水の被害に見舞われた地域を中心に、安全な飲料水の供給、浄水剤の提供、給水設備の復旧を支援します。また、仮設住宅や避難キャンプにおいて仮設トイレの設置を進めます。

子どもの保護センター

ユニセフは、震災により家族や友人を失った子どもに対する専門家による心理的サポートと、教員に対する心理的ケアの訓練、家族と離ればなれになった子どもの身元確認と家族との再会を支援します。

保健センター

ユニセフは、被災地における感染症の流行を防ぐため、予防接種の実施、医薬品や医療用具を病院や保健センターなどへ提供します。また、家族や地域住民に対して感染症の流行を防ぐための保健・衛生の知識の普及を支援します。

教育センター

ユニセフは、多くの小学校校舎が甚大な被害を受けた中、教育活動の迅速な再開を支援するため、被害状況を調査し、教材・教育備品を提供します。教育の再開は子どもに安心感を持たせ、心理的な回復の効果が大きい。このため教育の再開は地域住民を力づけることにつながります。また、小学校に「子どもに優しいスペース」を作ります。

ユニセフでは、地震による被害を受けた子どもと家族の緊急ニーズに対応するため、サンサルバドルにある現地事務所が、避難キャンプにおいて安全な飲料水の供給や衛生施設の設置を進め、離散した家族の再会支援、保健や教育の緊急援助を開始しました。また、地震により心に傷を負った子どもに対する心理的サポートも併せて実施します。ユニセフは、こうした緊急援助のための資金協力を国際社会に呼びかけています。

ユニセフは、現地事務所が緊急援助に入るとともに、本部スタッフがエルサルバドルに入り、子どもの緊急および復興ニーズの調査を行っています。この調査に基づき復興支援計画を立案、現行の緊急援助の実施に引き続いて復興支援を行います。

緊急募金にご協力をお願いします

(財)日本ユニセフ協会は、エルサルバドルで起きた地震の被害を受けた子どもや家族を支援する「エルサルバドル地震緊急募金」の受け付けを開始しました。皆様のご協力をお願いします。

郵便振替：00110-5-79500
口座名義：財団法人日本ユニセフ協会
通信欄に「エルサルバドル地震」と明記
 当協会への募金は寄付金控除が認められます。

募金はインターネットでも受け付けています
<http://www.unicef.or.jp>

●エルサルバドル地震緊急募金に関するお問い合わせは…
 (財)日本ユニセフ協会 協力事業部 担当/藤田
 TEL 03-3355-3222/FAX 03-3355-3810

日本ユニセフ協会ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

日本ユニセフ協会のホームページをご覧いただいたことはありますか？ユニセフのこと、世界の子どものこと、そして、日本でユニセフをご支援いただいている皆様の協力活動について、盛りだくさんの情報を掲載しています。当協会では、支援者の皆様によりわかりやすく迅速に情報をご提供するために、4月からホームページを大改訂することになりました。トップページを大幅に変更し、知りたい情報を簡単に探していただけるようにします。様々な協力団体の活動事例なども掲載し、今後は広く一般の皆様にもユニセフを支援する活動を紹介していきたいと思ひます。もち

ろ、各生協での取り組み例も紹介させていただきます。さらに、子ども向けのページも充実させ、親子で楽しめるページを拡大します。また、ご好評いただいておりますホームページからの募金(インターネット募金)、ユニセフカードやギフトのお申し込み(オンラインコレクション)も引き続き行いますので、よろしくお願ひいたします。

お子様と一緒にご覧いただけるユニセフホームページに、ぜひ1度アクセスしてみてください。ホームページに関する感想や生協の活動報告など、皆様からのたくさんのご意見をお待ちしています。



おかやまコープ



unicef

「ユニセフ

『ユニセフのつどい』は、各生協の組合員さんから寄せられる「ユニセフについてもっと知りたい」「現地ではどんな風に募金が役立てられているのかしら」といった声にお応えする報告会形式の催しです。ユニセフの現地スタッフを講師に招き、開発途上国のことを勉強したり、民

神奈川ゆめコープの場合

2000年度に『ユニセフのつどい』を開催した生協は、全部で6生協。そのうちの半分の3生協が初めての開催でした。今回初開催組のひとつである、神奈川ゆめコープにおじゃましてお話を伺ってきました。



Q. 神奈川ゆめコープユニセフの会は、発会したばかりだと伺いましたが…。

A. そうなんです。「ユニセフの会を作りませんか」という呼びかけに集まった組合員4人で、まだ日は浅いです。月に1度集まりますが、それぞれの役割分担がうまくいっていると思います。

Q. 『ユニセフのつどい』成功おめでとうございます。

A. ありがとうございます。「行動あるのみ」と動き出して、応募しました。開催が決まったときは嬉しかったです。

Q. 準備の段階では、いろいろと心配されたこともあったのではないですか？

A. どのくらいの規模(人数)で開催しなければいけないのか、送られてきた手引書などで過去の例を知るうちに、正直不安になりました。初めは夏休みの親子で楽しめる企画を考えていて、30人くらいをイメージしていたのですが…。少人数であってもよいということでした

が、なかなかねえ…。準備段階ではユニセフ協会からスケジュールにあわせて必要な内容を説明したFAXが届き、それにそって準備の確認ができたので、その点は大変安心でした。手取り足取りって感じで…。すごくしっかりしたマニュアルだと感心しました。

Q. 具体的なことを伺います、まず会場ですが…。

A. 当初予定していたところがあったのですが、地理的な不便さもあり、場所を新横浜に変更しました。会場が決まると具体的なイメージがわいてきました。

Q. 広報活動としてはどんなことをされたんですか？

A. 組合員向けの機関誌、夏休み企画を特集したチラシなどに、『ユニセフのつどい』の開催を掲載しました。ユニセフ協会では、県内の個人会員の方にチラシを郵送してくれました。

Q. プログラムの内容を教えてください。

A. 報告会のあとにクイズとプレゼントコーナーを設けました。「経口補水塩(ORS)」もみんなで作ってみました。クイズでは「ユニセフと世界のともだち」を資料としてお子さんたちにお渡ししたので、その中から調べられるように工夫しました。また、別室にビデオルームも設けました。



ゆめコープ



コープぎふ



佐賀県生協連

**申し込み
お問い合わせ**

2001年度の報告スタッフは未定です。全国組合員活動情報5月初めには、日程を確定しご連絡いたします。(協力事業)

「のつどい」開催しました

族衣装や料理を通じてその国の文化を紹介したりします。また、会場にスペースがあれば、ポスターや写真パネルを展示したり、ユニセフカードなどを販売することも可能です。アイデアと行動力で、楽しく企画・運営された『ユニセフのつどい』をレポートしました。



青森県生協連

Q. 展示はされたんですか？

A. ユニセフ協会から、「地雷レプリカ」と「水がめ」をお借りしました。当日空尾さん(ユニセフモンテネグロ事務所長)が、地雷教育用ポスターや子どもたちの絵などを用意してくださいました。一緒に準備を手伝ってくださり、嬉しいやら恐縮するやらでした。



「当日は国際交流のメンバー、職員の人のお手伝いに助けられました」とのことですが、「4人でつどい実行できました」と笑って話してくださいました皆さんの頼もしいことといったら…。せっかく空尾さんが来てくださるのだから、この機会を無駄にしたくないという願いが通じて、ゆめコープ組合員の他、ユニセフ個人会員7人、他生協の人の参加もあり、予想以上の盛況ぶりだったそうです。

メンバーは「自分の言葉でユニセフを語れるようになりたい」という新たな目標を掲げ、ホームページなども利用していろいろな資料をとりよせ、自分たちが学ぼうと動き始めました。そんな皆さんの夢は、“ユニセフキャラバン隊”——ユニセフ活動を紹介してあちらこちらを巡ること。とても元気で勉強熱心なメンバーは、きっと実現させることでしょう。

<山本>

●この記事に関するお問い合わせは…

神奈川ゆめコープ 大和センター 担当/池田美子
TEL 046-260-0351/FAX 046-260-0357



モンテネグロのユニセフ現地事務所でコソボ難民の緊急救済に従事されている空尾雪絵さんの報告から(「ぼむぼむ通信」12号にも報告が載っています)

コソボ周辺でのユニセフ活動 ～支援を必要とする子ども：推定50万人～

コソボ紛争により、近隣諸国へ避難した子どもたちの多くは、心に深い傷を負っています。少しでも「平常」に近い生活を取り戻させるため、ユニセフでは「子どもに優しいスペース」作りを支援し、子どもらしい生活のできる環境作りに取り組んでいます。

また、コソボ内の子どもたちへの支援も大きな課題となっています。ユニセフでは、医薬品の提供、予防接種、精神的外傷(トラウマ)に対処するためのカウンセリング、教育キットや教育資材の提供などの支援を行っています。

非暴力的コミュニケーション

ユニセフは、紛争後の子どもたちへの平和教育の中で、NGOや教育省と協力して、「非暴力的コミュニケーション」を広めています。

例えば、クラスでAくんとBくんがケンカを始めたとします。先生は2人を立たせ、「A(B)くんの帽子をかぶってみてください。あなたがA(B)くんだったらどんな気持ちができるでしょう。考えてみてください」と話しかけます。

トラウマを負った子どもたちの多くが、暴力的傾向、もしくは逆に極度の鬱状態にあります。ユニセフが行うカウンセリングでは、自分が体験したつらい出来事について、絵や作文を書いたり話をして気持ちを表現することで、少しずつ子どもたちの症状が改善しています。

報3月号にて、詳細をお知らせします。4月末までに開催生協を決定します。
部 藤田 電話：03-3355-3222/FAX：03-3355-3810)



英国式すてきなスキンシップ 人と人との結びつきを大切にする心

留学したのはオックスフォードの近くにあるチェルトナムという小さな田舎町で、言葉がきれいなことで知られています。学校があるときは寮で生活し、休みのときはホストファミリーの家にお世話になりました。

ホストファミリーは、私と同じ歳の女の子と、弟がいる4人家族でした。イギリスのお宅でお世話になるということで最初はとても身構えていましたが、ホストファミリーの方はとても自然に迎えてくれました。初めて会う人でもキスをしたり抱き合ったり…イギリスの家庭はスキンシップが多いので、びっくり。私にも同じように接してくれるので最初は戸惑いましたが、今はスキンシップはすてきなことだなあ、と思います。

盛んなチャリティ活動

イギリスでは多くの人がキリスト教徒で、生活の中にもいつも神様が存在していると感じました。日曜日の礼拝や食べる前のお祈り、会話の中に何気なく出てくる「神様がついていてくださるから」という言葉。そんなお国柄のせいか、イギリスではチャリティ活動がとても盛んです。若い人の間でも、学校や生徒が企画したチャリティが毎月のようにありました。「バレンタインデーにバラの花を届けてお金をもらう。そして集めたお金を寄付する」「生徒がお店や親戚などからスポンサーを探し、何キロか歩く。決めた距離を歩ききることによってお金をもらい、寄付をする」等々…みんなアイデアとユーモアがあって、活動的なんです。

勉強に対する姿勢の違い

授業中も、生徒の勉強に対する姿勢が日本とぜんぜん違います。日本の授業では先生が一方的に話し、生徒は受け身です。イギリスでは1クラスが10人前後で、先生が何か言うと一つひとつに生徒が反応し、質問もします。

川口あすかさん

現在高校2年生。高校の留学システムで、1998年7月から1年間イギリスに留学。中学時代にも2回イギリスのサマーキャンプに参加した経験があります。



生徒と先生のやりとりから、「じゃあ、その疑問点を調べてレポートにまとめてごらん」と言われて、後日発表をした生徒もいました。私もイギリスから帰ってきて、物事の白黒をはっきりさせる性格になったと思います。

ボランティア精神

留学していろいろな人に本当によくしてもらいました。もちろん文化も違うし、育った環境も違います。壁がなかったわけではないけれど、ごく自然に私自身を受け入れてもらい、視野も広がったかなと思います。

イギリスの人たちが自然に身につけているボランティア精神というか、人と人との交流、結びつきを大切にする心が、すてきなスキンシップの習慣に表れているのだと思います。そして、日本にいる私が他の国の人と交流しているのではなく、距離的には遠いけれど、みんな同じ一つの星に住む人間なんだという気持ちで、世界に関心を持つようになりました。

私はユニセフ活動にも興味を持っています。もっと勉強してボランティアの活動に参加したいと思っています。

イギリスのお菓子 スコーン

- ① 小麦粉とベーキングパウダーと塩をふるいにかける。
- ② ①をバターと混ぜ合わせる。
- ③ 混ぜ合わせたものの中心に穴を開け、そこに牛乳ととき卵を流し込む。
- ④ ③をやわらかい生地に仕上げ、平らなところで厚さ2～3cmにのばす。
- ⑤ 直径6cmくらいの丸形型に切り取り、油を塗ったオープン皿にのせて、小麦粉をまぶす。
- ⑥ 200℃のオーブンで10～15分焼く。

材料

小麦粉(225g)、ベーキングパウダー(小さじ1)、バターまたはマーガリン(50g)、牛乳(150ml)、卵(1個)、塩(ひとつまみ)

焼き上がったスコーンを横に半分に切り、バター、ジャム、生クリームなどをつけて食べます。ティータイムに紅茶と一緒にどうぞ。



もうお読みになりましたか？

「ねことねずみ ともだちになれるかな？」

トメク・ボガツキ 著／アグネス・チャン 訳



講談社 \1,500 (税別)

日本国際児童図書評議会 (JBBY) と日本ユニセフ協会
協催の平和と寛容をテーマとする「ハロー・ディア
エネミー」絵本展に出品されている絵本です。

私たちおとなは子どもたちに本当に大切なことを伝えているの
だろうか。絵本を読み終えたとき、そんなことを考えさせられ
てしまいました。仲が悪い代表のように言われている、あの
「ねこ」と「ねずみ」が…。柔らかな色彩と優しい線で描かれ
ているこの本は、きっと子どもたちのお気に入りになると思い
ます。「もう一回読んで」「私も一緒に遊びたい」という子ども
たちの声が聞こえてきそうなかわいい絵本です。ぜひ一度手に
取ってみてください。

<松本>



ご存じですか？ カレンダー募金

「カレンダー募金」とは、組合員さんや企業などに呼び
かけて、使用しないカレンダーを集め、年末から年始に
かけて店頭やバザーなどで販売し、ユニセフに募金する
活動です。これまでは、12頁のおたよりで紹介してい
るみやぎ生協のように、各生協が独自に企画し、カレン
ダーの収集と販売をされていました。集まるカレンダー
や手帳は、株式会社〇〇と社名の入っているものが主で、
販売前の値付けや陳列など、組合員さん一丸となって大
きなご協力をいただいてきました。

今年度は、GINZA-ITOYAとして知られる(株)伊東
屋さんのご厚意により、大量のカレンダーを日本ユニセ
フ協会にご寄付いただきました。それらは、1月中旬ま
で首都圏各地の伊東屋さんの店頭で販売されていた
2001年のカレンダーの残りです。事前にご希望いた
だいた生協にカレンダーを送付し、2月
以降、各生協ごとにカレンダー募金に
お取り組みいただきました。日めくり
カレンダー、風景写真、キャラクター
商品、輸入品と内容も様々で、多くの
組合員さんが、快くカレンダー募金に
ご協力くださいました。皆様の温かい
ご支援に感謝申し上げます。



初めてのチャレンジ ゆめコープ

今回のようにカレンダーを使用しての募金は、私たち
神奈川ゆめコープユニセフの会にとって初めての試みで
したが、会場では大変多くの方々から励ましの言葉をい
ただき、メンバー一同とても感激しました。

「ゆめコープ商品展示会」という、動員数の多いイベン
トでの実施だったこともあり、組合員はじめゆめコープ
職員、参加業者の皆さんも協力してくださって、200部
を販売し、31,167円もの募金が集まりました。

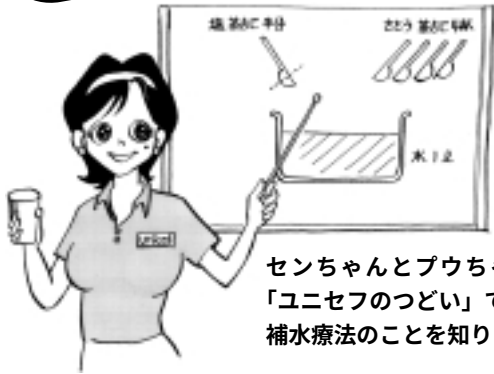
ゆめコープでは、お年玉募金や緊急募金は一口の金額
を「〇〇円」と決め、口数を注文用紙に記入していただく
方法で募金活動を行っていますが、これですと組合員さ
んたちと直接接することができません。今回のようなイ
ベントでのユニセフプロダクツ販売、募金活動は、来場
者と直接話ができるということもあり、ユニセフ活動に
ついて知っていただくよい機会となります。

今後もできるだけ多くのイベントを催し、ユニセフを
紹介していきたいと思います。

●この記事に関するお問い合わせは…

神奈川ゆめコープ 組合員活動 担当／池田美子
TEL 046-260-0351/FAX 046-260-0357

KID'S ROOM



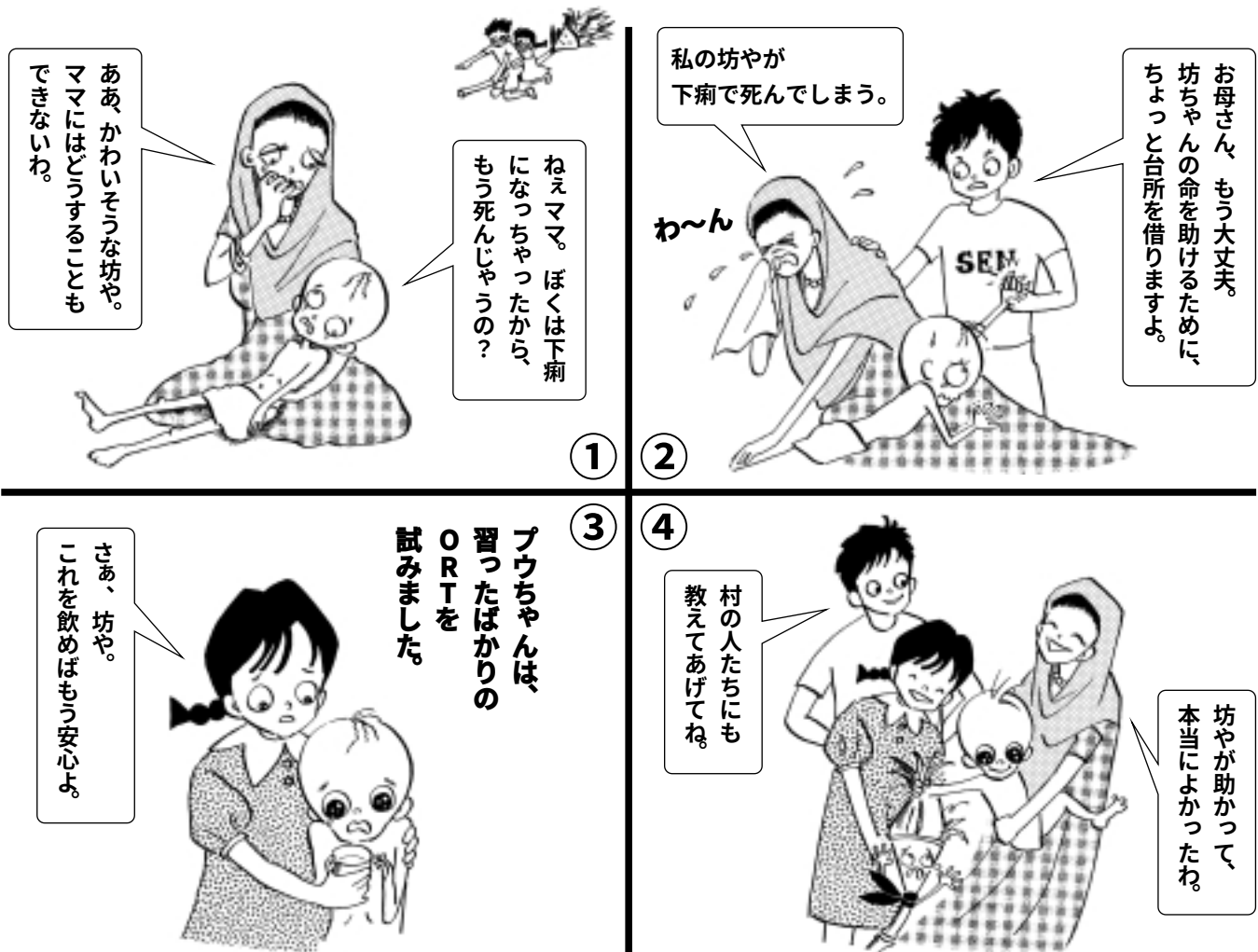
センちゃんとプウちゃんは、「ユニセフのつどい」で、経口補水療法のことを知りました。

下痢で苦しむ子どもを助けに、
バングラデシュに行くぞ！

下痢で大量の水分が体から抜けてしまうと、命を落とすことがあります。経口補水療法では、普通の水の25倍の速さで吸収される簡単な飲み物を作り、子どもたちに飲ませます。この方法で、年間100万人以上の子どもたちの命が守られています。



「下痢の子どもを救え！ORT(経口補水療法)」の巻



！ このお母さんは、下痢をしている子どもにも水も食べ物も与えていませんでした。水をあげてもすぐにまた下痢をするので、あげない方がよいと思っていたのです。開発途上国の子どもの死因の17%は、下痢性の病気です。ユニセフは、保健や衛生の知識を広める活動をしています。村のヘルスボランティアに、下痢の予防や対処法を伝え、ボランティアが村の住民に広めます。また、家の近くで薬が手に入るよう、村に医薬品を置く支援もしています。

つくってみましょう

1. 沸騰させた水1リットルを用意する。
2. 塩小さじ半分、砂糖小さじ4杯をさました水に入れる。
3. 全部かき混ぜてできあがり。



ぼむ・ぼむ通信

アンケート集計

No.12でご協力をお願いしましたアンケートの集計結果をご報告します。皆様からのリクエストにお応えできるよう、ぼむぼむ通信編集スタッフ一同、今後とも力をあわせて取り組んでまいります。よろしくお願いします。



1. 回収率 36件のご回答をいただきました。
ご協力ありがとうございました。

2. ぼむぼむ通信が届いたときの活用法（複数回答）

- ・担当者が目を通すだけ 10件
- ・関係者に回覧、掲示板に貼る、コピーを配る等 22件
- ・機関紙やチラシに一部を抜粋し掲載 5件
- ・その他（初めて受け取った等） 2件

3. 今後ぼむぼむ通信で取り上げてほしい内容やその他リクエスト

- ・各生協の取り組み紹介を多く（生協のユニセフボランティアグループの活動を中心に）
- ・催し物の報告だけでなく、途中の苦勞や裏方的な報告、組合員さんの声を載せてほしい
- ・支部、友の会の違い等
- ・内部の仕事の紹介
- ・募金の使われ方について、ユニセフの活動報告
- ・緊急募金の特集
- ・他の生協で作成しているチラシや新聞の紹介
- ・学習資材の紹介
- ・黒柳さん、アグネスさんの記事等
- ・交流の場コーナー

- ・活字をもう少し大きくしてほしい
- ・スタディツアーの報告
- ・指定募金先の様子を詳しく知りたい
- ・インド・ビハール州（生協の指定募金先）の身近な問題を、マンガタッチで載せてほしい。

4. 今年度の貴生協におけるユニセフの取り組みについて（または、貴生協の紹介メッセージを）ひとことお願いします。

- ・「紛争の中の子どもたち」をテーマにチラシを作った。
- ・店舗レジでの募金呼びかけだけだったが、今後は組合員に知らせる活動を始めたい。
- ・ユニセフの緊急募金にはほぼ取り組んだ。結果を組合員に報告したい。
- ・年2回、組合員にユニセフ募金の協力をお願いしている。
- ・スタディツアーの参加者が、チラシや広報誌に記事や写真を提供している。
- ・夏＝平和、冬＝ユニセフというイメージがあるので、夏にユニセフのつどいを開催した。この中で「戦争」や「平和」についても学ぶことができた。
- ・12月はクリスマスチャリティコンサート、ハンド・イン・ハンドと、組合員活動もユニセフの行事が目白押し。
- ・フリーマーケット、ハンド・イン・ハンド、平和の取り組み（地雷レプリカ展示）など、草の根の取り組みを大事につなげていきたい。
- ・お年玉募金、ホームページでの紹介、ユニセフ写真展などに取り組んでいる。
- ・年明けにカレンダー募金を開始する。
- ・ユニセフ協会の支部と協力して活動している。
- ・今後は子ども向けのゲームや人形劇を通じた広報活動など、新しい道を開いていこうと考えている。

子どもの権利ってなんだろう？

- 第18条「子どもの養育はまず親に責任」子どもを育てる責任は、まずその父母にあります。国はその手助けをします。
- 第24条「健康・医療への権利」国は、子どもがいつも健康でいられるように、できる限りのことをしなければなりません。子どもは、病気になったときや、けがをしたときには、治療を受けることができます。
- 第25条「病院などの施設に入っている子ども」子どもは、心や体の健康を取り戻すために病院などに入っているときに、その治療やそこでの扱いがその子どもにとってよいものであるかどうかを定期的に調べてもらうことができます。

センちゃん和プウちゃん和バングラデシュで出会った親子には、どんな権利和関係あるでしょう…。



新資料紹介

「世界子供白書2001」



ユニセフ本部が毎年発行し、世界の子どもの状況をその年のテーマに基づいて報告しています。2001年のテーマは「幼児ケア」です。

1部無料
2部以降は1冊190円

●資料のお申し込みは…

(財)日本ユニセフ協会 協力事業部 担当/藤田
TEL 03-3355-3222/FAX 03-3355-3810

報告 ハンド・イン・ハンド中央大会 2000.12.23 東京・恵比寿ガーデンプレイス

当日は、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使をはじめ、俳優の赤井英和さん、タレントの松村邦洋さん他多くの有名スポーツ選手がボランティアでユニセフ街頭募金にご協力くださいました。都内の小学生、ボーイスカウトやガールスカウト、市民ボランティアの方々の活躍もあり、471,264円の募金が集まりました。



皆様のあたたかいご支援
に感謝申し上げます

ユニセフ*コープ ネットワーク

ぼむ・ぼむ通信

No.13 [春号] 2001年3月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

(生協組合員ボランティア)

スタッフ・編集/岩橋・尾澤・浜崎・福本・
藤森・松本・山本・藤田

イラスト/総沢

発行 財団法人日本ユニセフ協会 協力事業部

〒163-8688

東京都新宿区大塚町31-10

ユニセフハウス

T E L 03-3355-3222

F A X 03-3355-3810

ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

おたより

独自の工夫を加えて

カレンダー募金大成功

みやぎ生協桜ヶ丘店地区のこーぶ委員会が中心になり、今年初めてカレンダー募金に取り組みました。みやぎ生協と取引のあるメーカーに呼びかけ、69社から1,290点のカレンダーを提供していただきました。集まったカレンダーは、プロ野球選手やアイドル歌手のもの、すばらしい日本画やシンプルな数字だけのものと、バラエティーに富んだ内容でした。



値付けを前日までに終わらせて、販売に臨みました。マスコミでも大きく取り上げられ、「また来年もやってね!」とメンバーから声が寄せられるなど大きな反響を呼びました。売り上げは全部で250,048円になりました。代金の支払いは、買った方が直接募金箱に入れる方法を取り、募金をする実感を味わっていただけるよう工夫しました。すでに北海道で取り組まれている企画のようですが、みやぎでも独自の工夫がプラスされ、新しいユニセフ募金の形がまたひとつできたようです。

●この記事に関するお問い合わせは…

みやぎ生協 生活文化部 担当/千田睦子

TEL 022-276-5162/FAX 022-276-5160

編集後記

★私「ユニセフの募金に出会ったらしてね!」娘「してるよ。でも、あの、ありがとうごさいました!!って大きな声で言われるの、てれくさくて苦手なんだけどなあ。なるほど、声を出す方も恥ずかしいけど、言われる方も恥ずかしかったとは、気がつきませんでした。(山本)★今年のお正月は、家族で箱根駅伝を見に行きました。ランニングと短パン姿で箱根の街を駆け抜けていった学生たちから、いっぱい元気をもらいました。『ぼむ・ぼむ通信』の編集の仲間に入れていただいてはや2年!ユニセフを通じてたくさんの方に会えて幸せです。今年もぼむ・ぼむの読者の貴方に会えること、楽しみにしています。(福本)★11月にインドを視察し、帰ってきた矢先に、

大きな地震が発生しました。約10億人の人口を抱えるインド。多くの子どもたちが貧困と差別の中で暮らしています。特に女の子は、出生前に性別がわかると中絶されたり、生まれてからは、十分な食事が与えられなかったり、小学校に通わせてもらえなかったり、10代のうちに親の決めた相手と結婚させられ嫁いだ先でいじめられたり、と多くの問題に直面しています。デリーの路上で見た小さな小さな女の子。バスで移動する私たちに向かって手を伸ばし、泥とほこりにまみれた小さな顔にはアンバランスなほどの大きな目で、私たちをじっと見つめています。1人でも多くの子どもたちが笑顔になるように、これからもユニセフにご協力お願いいたします。(藤田)